

『銚子市地域福祉計画・地域福祉活動計画』の進捗状況について(令和5年度分)

令和5～9年度の5年間の計画期間として策定した『銚子市地域福祉計画・地域福祉活動計画』に掲載された事業の進捗状況を点検・評価しました。

【点検・評価の方法】

銚子市地域福祉計画掲載157事業と、地域福祉活動計画掲載33事業について、事業担当課において、令和5年度の実行状況、今後の課題等を点検・評価しました。
(一部、計画作成所管課(社会福祉課)において、調整したものがあります。)

評価基準は、次のとおりです。

評 価	基 準
A	計画どおりに施策・事業が実施できたと思われるもの、または目的を達成し完了したもの
B	施策・事業を実施したが、何らかの課題がある場合や、さらなる充実が必要と思われるもの
C	施策・事業を実施したが、進展が見られなかったと思われるもの
D	未実施、または目的の達成前に中止した施策・事業

【点検・評価結果】

＜地域福祉計画＞

157事業の進捗状況の点検・評価結果は、以下のとおりでした。

(複数の課・室で重複して実施している事業は、最も良い評価を採用しました。)

A B C D評価	A	B	C	D
基本方針1「福祉のまちづくりの意識を高める」37事業	24	11	0	2
基本方針2「福祉の担い手を育て、支える」16事業	11	5	0	0
基本方針3「地域で共に生きる体制を整える」33事業	21	9	3	0
基本方針4「安全・安心な暮らしを守る」49事業	35	12	2	0
基本方針5「暮らしやすい生活環境をつくる」22事業	7	15	0	0
計画全体157事業	98事業 (62.4%)	52事業 (33.1%)	5事業 (3.2%)	2事業 (1.3%)

○点数換算（A＝5点 B＝3点 C＝1点 D＝0点）

点数換算（点）		100点満点換算
基本方針1	153／185	82.7／100
基本方針2	70／80	87.5／100
基本方針3	135／165	81.8／100
基本方針4	213／245	86.9／100
基本方針5	80／110	72.7／100
計画全体	651点／785点	82.9点／100点

令和5年度の取組状況は、A B C D評価におけるA評価が全157事業中98事業、全体に占める割合が62.4％であり、概ね計画どおり進んでいると考えます。

B評価の事業52事業は、実施しているものの、実施上の課題があればその解消を図るなど、更なる充実を図る必要があります。

事業の進展が見られなかったC評価5事業は、その課題を整理し、今後事業を推し進めるための方策を検討する必要があります。また、未実施であったD評価2事業について、未実施だった理由や着手するための方策、取りやめた事業の理由を検討・分析することが必要ではないかと考えています。

また、点数化した結果で、点数が低い「基本方針5暮らしやすい生活環境をつくる」の項目では、生活を支える環境の整備や、主体的な健康づくりの推進について、さらに注力する必要があると考えます。

【地域福祉推進協議会委員からの意見】

行政における点検・評価に対し、地域福祉推進協議会委員から次のとおり意見がありました。これら意見のうち点検・評価の手法等に関するものは、次年度以降の点検・評価に反映させるとともに、個別の事業に関するものは、事業担当課にフィードバックし、事業内容の改善や予算措置の検討などを行うこととします。

<計画全体に関すること>

項目	意見の内容
評価指標	評価指標が「有無」になっている事業について、A評価であっても、数値（実施回数、実施施設数等）を入れた方がわかりやすい。
A評価について	A評価がかなり多くて、5年間の計画をすでに達成してしまっていて、この後どうなるかと考えると、スモールステップで、さらに上に行くにはどうしたらいいかという課

	題を、A評価であってもA評価以上に行くために何をするのか書く項目があってもいいかなと思った。
B評価について	B評価の事業について、評価理由と今後の課題は具体的に何を改善するのかを記載すれば今後の推進の方向性がわかりやすい。
全体	概ね計画どおりに進んでいるように評価しているが、評価基準が計画どおり実施したかどうかであり、成果を求めている。もともとの計画自体が貧弱なものも散見される。この評価をもって充実した福祉施策が実施できていると評価していいのかと悩むところである。 評価Aは「計画どおり施策・事業が実施できたと思われるもの、または目的を達成し完了したもの」評価Bは、「施策・事業を実施したが、何らかの課題がある場合や、さらなる充実が必要と思われるもの」とある。担当者の判断としてAが圧倒的に多いという状況から、担当者の問題意識等が感じられないと同時に新たな展開が望めないように思われた。
全体	おおむね計画どおりに進んでいると思われます。
全体	今回の計画ではたくさんの項目があるが、今年は何を主としてやるかという点、事項を掲げてもらった方がわかりやすい。
全体	これは誰がどのように評価してるのか。担当者1人でやっているのか。だからA評価がだいぶ多くなったとか、点数の付け方がどうか疑問に思っている。

<個別事業に関すること>

事業番号	事業名	意見の内容
111101 121403 122105 131102 132102 312101 (131302)	○市民ふれあい講座の実施 ○家族介護交流会・家族介護教室の開催 ○子育て広場の開設 ○第2層協議体「西部ふれあい会」の活動支援 ○ファミリー・サポート・センター会員同士の相互援助活動の支援 ○実態把握事業	令和5年度実績が上がっており、コロナ禍以降の積極的な取り組みの成果がよく見えた。

121301	○福祉まつり	福祉まつりは、交流の促進のための施策の小項目「世代間交流等の促進」で、地域活動計画では4年ぶりに実施し、30団体500人の参加で参加体験型の実施が評価されていました。 地域福祉計画では、社会福祉室の今後の課題で、共催の希望があるが、現状の民間主導の開催が適当となっていました。 このことから、福祉計画と活動計画では、評価はともにA評価だが課題に差があるため、今後の促進を図るための課題（共催と民間主導のメリット）をそれぞれ、明記した方がよいと考えます。（行政側と社会福祉協議会との協議が必要であると考えられる。）
121502	○育児サークルの支援	事業未実施の理由を記載するとよい。
122102	○ふれあい交流サロン支援	補助金の額が事業実施上まったく見合っていないので、増額を望みます。
122103	○認知症カフェ開設補助事業	文言のとおり開設時のみの補助金なので、継続運営は実施主体のボランティアで行っているのが実情。事業を充実させるためには運営費補助も考えていただきたい。
122103	○認知症カフェ開設補助事業	主催者は通常の介護業務をしつつ、休みの日に、地域のために何ができるか知恵を出し合い、準備しているので大変。（補助金が）増えるに越したことはないが、関係者が地域のために頑張っている。
131102	○第2層協議体「西部ふれあい会」の活動支援	「西部ふれあい会」の活動に当たっては、活動費が一切ない状況です。活動を発展させるために活動費助成を望みます。
132101	○精神障害者ピアサポート事業の支援	実績が減少したのは委託事業として実施したことが理由であったのか、それまでは、行政主体で実施していたの

		か、実施回数が減少したのかなど、精神障害者のサポート事業としての交流の場を支援する困難な状況がもう少しわかると今後の方向性や取り組みが検討できてよいと思う。
132101	○精神障害者ピアサポート事業の支援	評価指標である事業参加延べ人員が前年度と比較して減少しているため、評価はBとなっているが、減少した理由を分析していただきたい。 なお、この事業は、精神障害者が自らの体験に基づき、当事者ならではの視点で支援を行い、また、障害者の積極的な社会参加を地域社会が受け止め、発展させている事例として、全国的にみてもかなり先駆的といえるものであり、平成31年以降継続して事業を展開していること自体が評価されるべきものと考えられる。よって、評価はBというより、Aと理解したい。 また、次の計画においては、評価指標を、参加人員だけでなく関係機関からの評価なども加えたものにして、事業を他の切り口からも総合的に評価できるようにしてみたい。 評価は多角的な視点でやると、実態に即したものになり、いろいろな課題も見えてくる。可能であれば次回の策定時にそういう視点を持った評価指標になるといい。
311201	○複合的な課題に対応できる相談支援体制の検討整備	庁内関係課だけでなく、社会福祉協議会や推進協議会の委員の中にも相談援助職がいるので、もっと具体的なところから意見交換程度からでもいいので早期の体制整備を希望します。
312201	<制度のはざまの課題への対応> ○地域福祉推進幹事会の取組強化	C評価の理由で、「具体的な制度のはざま問題について検討は行えなかった」とあるが、なぜそうなったのか、その理由として、どのような内容で会議

		が行われたのか、回数よりも内容が大切に思えました。また庁内関係課の連携の課題があればその対策をする必要があると思えました。
332101	○第三者委員制度の周知	C評価の理由としての「取り組みが行われていない」とあるが、その理由を分析、評価する必要がある。
431203	○民間事業者との見守り協定の締結	協定を締結している民間の事業者を知りたい。 近所関係が希薄だと言うが、やり方によって、どうとでもなるんじゃないかと思う。
432101	○地域包括支援センター及び基幹相談支援センターにおける権利擁護業務	成年後見をはじめとした権利擁護の対象者は増え続けている状況です。人手不足はあるとしてもより一層の充実を望みます。特に中核機関の設置は急務の課題ですので、早期の検討を希望します。
432102	○成年後見人等報酬助成事業	今後の課題にもあるとおり、市長申立て以外の事件にも助成を希望します。

<地域福祉活動計画>

33事業の進捗状況の点検・評価結果は、以下のとおりでした。

A B C D評価	A	B	C	D
基本方針1「福祉のまちづくりの意識を高める」13事業	10	2	0	1
基本方針2「福祉の担い手を育て、支える」2事業	1	1	0	0
基本方針3「地域で共に生きる体制を整える」9事業	6	3	0	0
基本方針4「安全・安心な暮らしを守る」9事業	5	4	0	0
基本方針5「暮らしやすい生活環境をつくる」0事業	0	0	0	0
計画全体33事業	22事業 (66.7%)	10事業 (30.3%)	0 (0.0%)	1事業 (3.0%)

○点数換算（A＝5点 B＝3点 C＝1点 D＝0点）

点数換算（点）		100点満点換算
基本方針1	56／65	86.2／100
基本方針2	8／10	80.0／100
基本方針3	39／45	86.7／100
基本方針4	37／45	82.2／100
基本方針5	—	—
計画全体	140点／165点	84.8点／100点

令和5年度の実施状況は、A B C D評価におけるA評価が全33事業中22事業、全体に占める割合が66.7%であり、概ね計画どおり進んでいると思われます。

B評価の事業10事業は、今後、更なる充実を図る必要があります。

なお、D評価の1事業は、諸事情を勘案し、やむなく事業を中止したものです。

【地域福祉推進協議会委員からの意見】

社会福祉協議会における点検・評価に対し、地域福祉推進協議会委員から次のとおり意見がありました。これら意見のうち点検・評価の手法等に関するものは、次

年度以降の点検・評価に反映させるとともに、個別の事業に関するものは、事業内容の改善の検討などを行うこととします。

<計画全体に関すること>

項目	意見の内容
評価指標	評価指標が「有無」になっている事業について、A評価であっても、数値（実施回数、実施施設数等）を入れた方がわかりやすい。
全体	おおむね計画どおりに進んでいると思われます。
（地域福祉計画と共通の項目・内容は省略）	

<個別事業に関すること>

事業番号	事業名	意見の内容
130002 130008 220001	○ファミリーサポートセンター事業 ○ボランティアの育成や活動の推進 ○ボランティアコーディネート機能の充実	令和5年度実績が2倍に上がっており、コロナ禍以後の積極的な取り組みの成果がよく見えた。
121301	○福祉まつり	福祉まつりは、交流の促進のための施策の小項目「世代間交流等の促進」で、地域活動計画では4年ぶりに実施し、30団体500人の参加で参加体験型の実施が評価されていました。 地域福祉計画では、社会福祉室の今後の課題で、共催の希望があるが、現状の民間主導の開催が適当となっていました。 このことから、福祉計画と活動計画では、評価はともにA評価だが課題に差があるため、今後の促進を図るための課題（共催と民間主導のメリット）をそれぞれ、明記した方がよいと考えます。（行政側と社会福祉協議会との協議が必要であると考えられる。）